

いのち
胎生のぬくもり・悠久なる風の中で

松本光司展



風の車・91・J 1991(平成3)年

1992年5月1日(金) - 17日(日)

開館時間：午前9時 - 午後5時（入館は午後4時30分まで）
初日開館：午前11時 休館日：5月4日(月)、11日(月) 入場無料
主催：刈谷市・刈谷市教育委員会 後援：愛知県教育委員会・中日新聞社

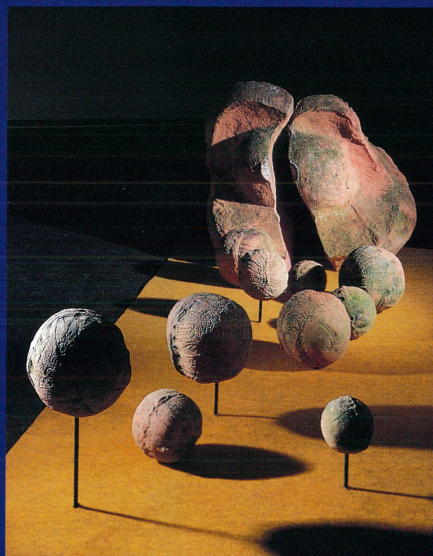
刈谷市美術館

愛知県刈谷市住吉町4-5 ☎(0566)23-1636

いのち
胎生のぬくもり

悠久なる風の中で

松本光司展



月の化石と海月のなかま 1968(昭和43)年



偶(果実) 1966(昭和41)年



空を想う 1980(昭和55)年



MY BOX 76-1 1976(昭和51)年



風標・88・b 1988(昭和63)年



風の子・91・B 1991(平成3)年



風の子・92・05 1992(平成4)年

温かみのある豊かな造形世界を展開する彫刻家・松本光司。氏の愛知教育大学退官を記念して、初の本格的展覧会を開催します。

松本氏は、昭和4年東京生まれ、昭和30年東京芸術大学彫刻科を卒業。個展や自由美術展を中心に精力的な活動を開始します。昭和44年愛知教育大学教員に就任。その傍ら、紀伊長島彫刻シンポジウムへの参加や、国際ダンテ鑄造彫刻ビエンナーレ展をはじめ、多くの公募展に積極的に出品を重ねてきました。

近年、ロダン大賞展で彫刻の森美術館賞、優秀賞を受賞するなどますますその評価を高めています。

初期には、古代の生物や建築を想わせる量感あふれるテラコッタ(素焼き)を制作。不思議な郷愁と力強いおおらかな作風に、新たな生命を生み出す母胎の姿が重なります。そして、球体を組み合わせた「海月シリーズ」では葉朴さなど簡潔さを合せ持つ素焼きの作品が、互いに呼応しあう悠遠な宇宙を創り出しました。

昭和47年のヨーロッパ旅行を機に、野外劇の舞台を連想させる箱型のテラコッタを繰り返し制作します。その内部へと視線を誘われ、観る者はいつの間にか氏の内的世界へと導かれていきます。

昭和50年代には、確かな造形力でどっしりとした存在感あるさわやかな木彫を展開しました。

そして近年、「風の子シリーズ」で、時空を遙かに越える風に乗って、過去、現在、未来へと時は移り変わっても、変わることはない生命体の普遍的な存在価値が語られています。

テラコッタ、ブロンズなど扱う素材は異なっても、その制作の根柢には人間愛を追求するひたむきな姿勢が貫かれています。

本展は、初期のテラコッタをはじめ、鑄造作品、最新作の木彫やデッサン、野外彫刻作品の写真などを含む100余点により、その芸術世界を紹介します。

刈谷市美術館

■所在地
愛知県刈谷市住吉町4-5
TEL (0566)23-1636
FAX (0566)26-0511

■交通案内
JR東海道本線・名鉄三河線
「刈谷駅」下車、南口から徒歩7分

